



神の恵みを無にはしない

わたしは、神の恵みを無にはしない。もし、義が律法によって得られるとすれば、キリストの死はむだであったことになる。

（ガラテヤ人への手紙第2章21節 口語訳）

き むら はる お
木 村 治 男

「わたしは、神の恵みを無にはしない」。福音の真義を鮮明にして限りない言葉です。コロナ禍にあって教会の内外に課題山積する中、このガラテヤ書、パウロの言葉に耳を傾けたいと思います。道に迷った時、まずは、元の地点に戻ることを私たちは良しとするものです。今私たちは、これまでとは全く異なった状況の中に置かれています。教会が予め決めて主の日の礼拝を休むことなど、考えもしませんでした。街中に出ることを制限されることなども全く考えることもありませんでした。このような中で私たちは、多くのことにつき、今までとはかなり違った判断を求められる状況下に至っています。

私たちの信仰の立ちどころは福音、あるいは「人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるのである」との信仰義認です。それゆえに「わたしは、神の恵みを無にはしない」、このパウロの言葉を是非とも確認したいと思います。なぜなら、実に「神の恵みを無にはしない」との言葉は福音の告げる真義を鮮やかに示すからです。「神の恵み」、すなわち、それは「キリストの死」であり、まさに「キリストの死をむだにしない」ことを鮮明にするからです。

「キリストの死をむだにしない」、これこそが福音、あるいは信仰義認の言葉によって言い表されている私たちの「信仰告白の根底」、私たちの「信仰の生き方」です。どんなにすばらしい業や働きがなされても、どんなにすばらしい言葉や言説が表明されても、もしそれらが「キリストの死をむだにする」ことになるのならば、本当の意味で私たちにとっては

力とならず、「神の恵み」とは言われ得ないものです。前節(20節)にこうあります、「わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである」と。

かつて、教会の青年会の読書会で、ルターの『ガラテヤ書講解』を学んでいました。そのさ中、共に学んでいた友が自ら命を断ってしまいました。「家族の愛に応えられない」からとのことでした。悲しみの中での私の決断はこうでした、「私は、決してキリストの死をむだにしない。神の恵みはキリストの死に現わされているから、決して私は神の恵みを無にはしない」。それが自ら命を断った友人への答えでした。57、8年前、受洗前後の心情として、その後の歩みの原点として、記憶しています。

パウロは、異邦人伝道、福音宣教の原点として「キリストの死を神の恵みとして」捉え、重大な教会問題・律法主義との闘いのさ中、熱情を露わにし、次章冒頭で「ああ、物わかりのわるいガラテヤ人よ。十字架につけられたイエス・キリストが、あなたがたの目の前に描き出されたのに」と叫びました。福音を福音として明らかにすることがパウロの闘いの目標であったのです。それは他でもなく、「神の恵み」を明らかにすることでした。どんなに深い昏迷の中にあっても、昔も今も変わらず、教会の判断は「神の恵みを無にしない」という福音の真義に立ってなされることで、良しとすべきではないでしょうか。

（上溝伝道所牧師）

目次

説教	神の恵みを無にはしない	…… 木村 治男	…… 1
大信仰問答	CATS・愛② 座談会 第1回	…… 信仰と制度に関する委員会	…… 2
旧約聖書に聴く	「原初史が語る人間と世界」(8)		
	「アダム系の図」	…… 高松 牧人	…… 4
憲法改正25年(第11条)	御言葉によって改革される教会の憲法は改革され続ける		
		…… 澤 正幸	…… 5
コロナの現場⑧	酪農地帯で起きた感染の拡大	…… 山村 元	…… 6
コロナ禍の中で⑩	感染が身近にある事を痛感	…… 高田 昌和	…… 6
こいのにあ	加西伝道所牧師就職式	…… 遠藤 浩美	…… 7
	大和教会牧師就職式	…… 大橋 亘	…… 7
	東京告白教会伝道師就職式	…… 小塩 海平	…… 8
	教会ニュース		…… 8